

## 私たちの平和

---

### イズコ神父

この間病者訪問チームの方と一緒に病者訪問に出かけて、88才のおばあさんの所に行き、印象を受けた事の中に一つまだ記憶していることがあります。それはその方の現代社会の平和を妨げる危険についての話でした。ちょうどその前の日には、日本の政治家達が国会で議論して、安倍総理の国を防衛するプランに強く反対する議員の発言もありました。その方はテレビも見えていないし、新聞も読んでいません。でも、危ないところ近づいているという危険を感じていました。

実際「平和」という宝物は人にとって大切なもので、同時に壊れやすいものだと思います。そして毎年夏になれば、平和について考えなければならないいくつかの記念日がやって来ます。今年は第二次世界戦争終結の70年の記念の年となります。日本カトリック教会の司教様方は、1995年（終戦の50周年）にもまた60周年記念の時も戦争と平和についてメッセージを発表されました。今年の2月25日にも発表されました。ここにその一部を引用致しました。

【日本は平和憲法をもとに戦後70年、アジアの諸国との信頼、友好関係を築き、発展させたいと願って歩んできたのです。一方、世界のカトリック教会では、東西冷戦、ベルリンの壁崩壊などの時代を背景に、軍拡競争や武力による紛争解決に対して反対する姿勢を次第に鮮明にしてきました・・・

この使命の自覚は、もちろん日本が広島、長崎で核兵器の惨禍を経験したことにもよりますが、それだけでなく戦前、戦中に日本の教会が取った姿勢に対する深い反省から生まれてきたものであります。

さらに、この地域の人々の生活や文化等の上に今も痛々しい傷を残している事について深く反省します。戦後70年を経て、過去の戦争の記憶が遠いものになるにつれ、日本が行った植民地支配や侵略戦争の中での人道に反する罪の歴史を書き換え、否定しようとする動きが顕著になってきています。

過去の過ち、暴力と破壊とに満ちた過去の過ちを繰り返してはなりません。陰しく困難ではありますが、平和への道を歩もうではありませんか。その道こそが、人間の尊厳

を尊厳たらしめるものであり、人間の運命を全うさせるものであります。平和への道のみが、平等、正義、隣人愛を遠くの夢ではなく、現実のものとする道なのです。】

司教様だけではなく教皇フランシスコも強く平和への道を歩ませようと励ましています。「平和は戦争が無い状態に還元されるものではありません・・・平和は日々の生活の中で構築されるものです・・・キリストは私たちの平和です・・・福音の告知は必ず平和の挨拶から始まりますし、平和は弟子達の間をどんな時にも結び合わせます。多様性におけるこの平和を実現するよう私たちが呼びかけられている第一の場は各自の内面であり生活であること、無数にばらばらになった心を持ってしては、社会の平和を築くことは困難です。」（福音の喜び・217-230）

しかし実際に、平和への呼びかけは神から来るのです。その宝物は、最終的に、神から来るメッセージです。キリストの十字架から流れている聖霊のたまものです。人間の弱い力だけによっては得られません。この経験を強くしたパウロはエフェソ教会の信者に残しています。「あなた方は、以前は遠く離れていたが、今はキリストにおいて、近いものとなったのです。実にキリストは私たちの平和であります。（エフェソ2・13-14）パウロはその言葉を書きながら、敵意の隔てを感じている信者のことを考えていました。今の教会にはユダヤ人もギリシャ人もアラビア人も平和の内に一致しています。さあ、人間にとって、平和は自然に何の骨折りもなしに完全に行われることはないでしょう。けれど家族の中にも教会の中にも、社会の中にもなんと必要な望ましい宝物！だから理想を完全に出来なくても、イエス様の言葉をいつも心にとめましょう。「平和を実現する人は幸いである。その人達は神の子と呼ばれる」マテオ5・9。